

信州大学×市立長野高校「探求課題の問いをつくるワークショップ」

参加者：20名（市立長野高校2年生15名、信州大学工学部学生11名）

日時：2015年7月27日(月)13時～15時

場所：信州大学 国際科学イノベーションセンター 2F 「オーバルスタジオ」



※オーバルスタジオ

多様な参加者が集まり自由な議論ができる楕円形のスペース。台形の可動式テーブルはグループの人数や目的に応じて自由にレイアウトの変更が可能。多数のLED照明が場の雰囲気の色で演出することができる。高校生を対象にワークショップを実施するのは今回が初めて。今後大学、学生、行政、企業など多様な主体による活発な議論の場として活用を図る。

I 市立長野高校課題探究プログラム

- ・キャリア教育の一環である。
- ・自分の興味・関心にしたがって決めたテーマを探究し、進路希望表現へとつなげていくことを目的とする。
- ・調べる・学ぶ→まとめる→発表する→共有する活動を通じて学習スキル向上、日常学習活動に生かす。

※<市立長野高校キャリア教育の構成>

- 1年 「産業社会と人間」総合学科高校比数科目 35単位
- 2年 「総合的な学習の時間」課題探究プログラム
- 3年 「総合的な学習の時間」（進路関係の学習）

II 今回ワークショップの目的：課題探究プログラムを進める中で、核心である、「課題設定」をグループワーク形式で体験学習する。

論文作成において課題設定が半分であるというほど、よい課題を設定することは探究を進めるうえで重要である。探究学習プログラムにおいてよい課題の条件とは、自分が興味・関心を持つことであり、心から魅力を感じ最後まで続けられること、自分の能力に見合っていること、新規性を持ち解決する価値を持つことである。しかし、興味のある分野があっても、探究テーマとして適切な具体性や学ぶ価値を持つ課題として絞ることがとても難しい。今回のワークショップでは興味・関心のあることから、具体的な探究活動が進められる具体的な問いにしばり込むプロセスを体験し、学ぶことを目的とする。

III ワークショップの流れ：グループで興味・関心のあることを見つけ、沢山の疑問に深掘し(Work1)、よい課題の条件と照らし合わせながら探究課題テーマの問いをつくる(Work2)。このようなプロセスはグループで行うが、実際の課題探究プログラムは個人のテーマを扱うため、ワークショップ最後のワーク(Work3)は個人テーマをつくる最初のステップになるように設計している。この流れは、ワークショップではプロセスを学び、学んだことを持ち帰って自分で課題テーマの問いをつくれることを狙ったものである。

※グループワークの狙い：限られた時間の中で、テーマから問いをつくる一連のプロセスを体験学習するために、多視点に刺激を受け、アイデアがたくさん出るグループワークにより、プロセスのスピードアップを図る。

Work shop (7月27日13:00～15:00)

Pre Work

* 事前課題 *

▷読みたい文献から興味関心を探索する

- ・大型書店で読みたい本（探求テーマ関連）を選びリストを作成
- ・各本の目次を印刷するなどにより用意する

Work1.グループテーマづくり

▷チームの(興味関心)テーマを見つける

- (1)アイスブレイク
皆がひとつになり良い成果を狙えるチームビルディング
- (2)ブレインストーミング
設問に対し、沢山のアイデアを出す
- (3)親和図法
アイデアをまとめる
- (4)グループテーマ設定
全員が共通に興味を持つテーマを導き出す

Work2.探求課題づくり

▷グループテーマを探求課題に絞り込む

- (1)疑問文をつくる
テーマに関連するキーワードを出し、俯瞰しながら多数の疑問文を出す
- (2)疑問文を一つに絞る
「社会的意義、新規性、実施可能性、最後まで取り組めるか」で照合し、1つを選ぶ
- (3)疑問文の深堀
5W2Hの小さな問いで分解、「WHY」「HOW」の問いに見直す
- (4)結果の共有・発表

※5W2Hは、5W1Hに「How Much」を加えたもの

Work3.個人テーマ

▷個人探求の準備を始める

(1)個人テーマのキーワード出し

事前課題を見直し、個人テーマに関連するキーワードをワークシートに記入する

After Work

* 次のステップ *

▷問いをつくる
興味のあるテーマから問いを立てるプロセス(Work2)を参考にし、Work3で作成した個人テーマに関連するキーワードワークシートを基に探求課題の問いをつくる。

▷研究計画・実施
教員のサポートを受けて研究計画を立て、研究活動を進める。